

平成 31 (2019) 年度 東北大学法科大学院入学試験 一般選抜 (前期)
試験科目：民事法 (民法)

以下の【第1問】から【第5問】までのすべての問いに答えなさい。

解答は、「民法の一部を改正する法律 (平成 29 年法律第 44 号)」によって改正された民法に基づいて行いなさい。貸与される六法には改正の前と後の両方の民法が掲載されているので、間違いのないよう、注意すること (改正後の民法は貸与六法の 415 頁以下に掲載されている)。

【第1問】 (解答は15行程度で行いなさい。)

AがBに欺罔され、その所有する甲土地をBに売り渡し、甲の移転登記がなされた後、Bが、Cに甲を売却し、Cは甲をさらにDに売却し、それぞれ甲の移転登記がなされた。CとDは、ともに、Aが詐欺によってBとの契約を締結した事情を知らなかったが、Cには知らなかったことについて過失がなく、Dには過失があった。この場合において、Aが、Bとの間の甲の売買契約を取り消したとき、Dに対し甲の所有権を主張できるかについて、①絶対的構成と②相対的構成の二つの見解がある。それぞれの見解がどのような構成であるかを説明したうえで、どちらの見解が妥当であるかを論じなさい (解答にあたっては、①、②の記号を用いて構わない)。

【第2問】 (解答は5行程度で行いなさい。)

所有権の「承継取得」と「原始取得」について、それぞれどのようなことであり、両者はどのように異なるかを説明しなさい。

【第3問】 (解答は5行程度で行いなさい。)

質権と留置権とはいずれも担保物権であるが、①民法上の他の担保物権と比較した場合に質権と留置権には共通点がある一方、②質権と留置権では相違点もある。①及び②について、簡潔に説明しなさい (解答にあたっては、①、②の記号を用いて構わない)。

【第4問】 (解答は5行程度で行いなさい。)

「制限種類債権」の概念について、「種類債権」と対比しつつ、それがどのようなものであり、どのような効果を有するかを説明しなさい。

【第5問】 (解答は5行程度で行いなさい。)

当事者の死亡により消滅する権利義務関係 (身分関係を除く) の例を二つ挙げ、それぞれについて、どうして死亡によって消滅するのかを説明しなさい。

以上